

歌が生まれる

校歌制作レポート 第4回



イラスト：山崎奈緒

前回のおさらい

公募に寄せられた言葉（赤&青文字）を使ってこんなダミー…

- ① 木漏れ日揺れる裏山に 学海の風そよぐとき
- ② 赤き煉瓦の学舎（まなびや）に 集いし友と語る夢
- ③ 敬愛・勤勉・聡明を 若き歩みの旨として
- ④ 共に開かん知の扉 上田短大我が母校

…を作り、①～④それぞれについて…

- ①（環境など）：悪くないが「裏山」と「学海」に難あり。
- ②（校舎）：「赤煉瓦」は避けたい。校舎を歌わなくてもよい。
- ③（校是・校訓など）：悪くないが熟語は避けたい。説教臭いのは嫌。
- ④（校名）：なくてもよい。音名に置き換えて入れる…をやりたい。

…と自分でツッコミを入れてみた。前はそんな内容でした。

で、今回は、そこでは触れていなかった青文字について少し書き、上記ツッコミの根拠について詳しく述べながら「じゃあどうするのか？」について考えていきます。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 8月12日 レポート

青文字について

- ① 木漏れ日揺れる裏山に 学海の風そよぐとき
- ② 赤き煉瓦の学舎（まなびや）に 集いし友と語る夢
- ③ 敬愛・勤勉・聡明を 若き歩みの旨として
- ④ 共に開かん知の扉 上田短大我が母校

これは、パスティシュまたはパロディとしての試作なので、徹底的に「それっぽく」ないと面白くない。だから4つの定番要素（環境・校舎・校是校訓・校名）を詰め込んで、さらに七五調を死守したのですが、定番要素の詰め込みは赤文字の羅列で難なくクリアできたものの、七五調にするにはそれだけだと舌足らず。そこで、単なる数合わせのために青文字の言葉を拾って足したに過ぎません。ところが、そうしてみると青字を含む語句は、どれも「私」が自身の姿に言及している言葉だと気づきます。これは大事なことかもしれません。これについてはあとでゆっくり考えることにしましょう。

「裏山」と「学海」を避けたい理由

裏山の木漏れ日、四季に彩を変える独鈷山、冬の晴天にキラキラ舞い漂う雪、手の届きそうな低さに浮かぶ雲、突如湧き上がるカエルの大合唱…。

短大周辺の自然環境は素晴らしく、在任中私は、ここで青春期を過ごす学生をいつも羨ましく思い、ここに永住したいとさえ思っていました。素敵なのはよくわかる。だからその素晴らしさを歌うことには賛成。でも「裏山」と自分家(ち)の庭自慢みたいで、あまりにも近視的ではないかな？

「学海」はこの地域の歴史に関わる言葉。かつて高度な知的活動の拠点としてそう呼ばれていた。けれども大切なのは、今ここで、現在進行形で高度な知的活動が営まれていくこと。そうでなければ「俺の爺ちゃんは偉かったんだぜ」「だから何？ 君はどうなの？」みたいなことになってしまうぞ？

それからもうひとつ、「学海」といえば長野の上田のあの辺の…と限定的な「地域の過去のニックネーム」だけれど、これをほどいて「学びの海」としてはどうだろう。広さ・深さ・自由さ・未知・冒険…色々なイメージが想起されて、ストライクゾーンが一気に広がるのではないかな？ そして、かつて海だった（鯨の骨が出るのです）この地域の地理的属性にも通じる。「学びの海」。よし、これ、いいと思う。使います。決まり。

・・・と、ここでまた紙幅が尽きてしまいました。続きはまた次回。

多分あと2～3回は立て続けに更新していくことになりそうです。